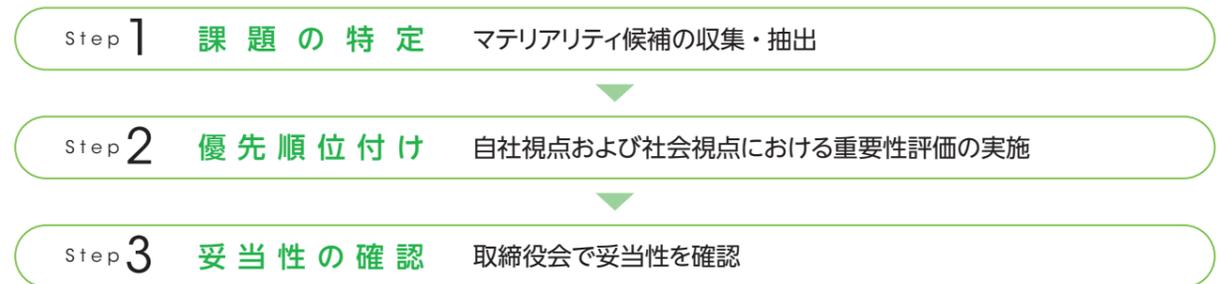


## マテリアリティ

企業活動を通じて重点的に取り組む社会課題を右記の図の通り5つのマテリアリティとして特定しました。  
マテリアリティへの取り組みは、当社グループの成長と社会課題の解決を両立するもので、中長期の経営戦略の基盤となるものです。

### マテリアリティ特定プロセス

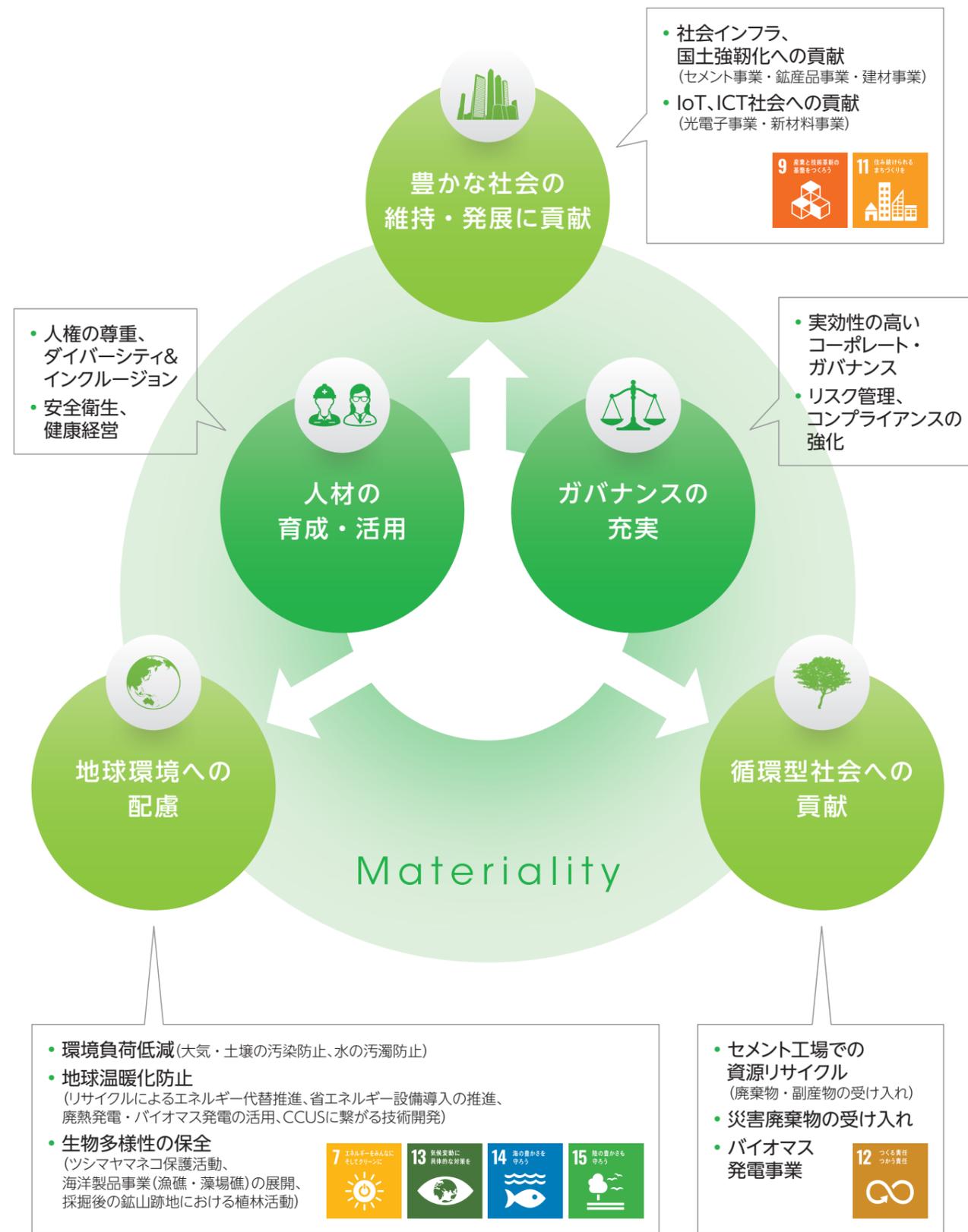
従来から継続してきた事業やCSR活動を基礎に住友大阪セメントグループの企業理念を踏まえ、社内外のステークホルダーの関心や期待を反映したうえで、当社グループが特に重要と考え、今後も取り組みを続けていくべき課題について特定しました。



### マテリアリティ・マトリックス



### 住友大阪セメントのマテリアリティ



# リスクと機会への対応

当社グループが企業活動を通じて、重点的に取り組む社会課題を5つのマテリアリティとして定めています。  
この5つのマテリアリティについて、想定されるリスクと機会を洗い出し、特定することで当社が取り組む課題を明確化しています。

マテリアリティ	リスク	機会	当社の対応
<b>豊かな社会の維持・発展に貢献</b> 	社会インフラ、国土強靱化への貢献 <ul style="list-style-type: none"> <li>国内セメント市場縮小</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既設インフラの老朽化による更新需要の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業ポートフォリオの変革</li> <li>セメント適正価格の確保・維持</li> <li>豪州セメント事業の拡大</li> </ul>
	IoT、ICT社会への貢献 <ul style="list-style-type: none"> <li>市場要求技術の急激な高度化に伴う開発難度の上昇（新材料）</li> <li>デバイスとの高付加価値競争の激化（光電子）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各産業における自動化・無人化の推進による半導体需要の増加（新材料）</li> <li>データ通信量の拡大に伴う大容量・高品質伝送の光通信需要の増加（光電子）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体製造装置用部品 静電チャック（ESC）生産設備の増強（新材料）</li> <li>人員拡充による開発・生産体制の強化（新材料）</li> <li>光通信機器 LN変調器の1.2T/1.6T市場への進出（光電子）</li> </ul>
<b>循環型社会への貢献</b> 	セメント工場での資源リサイクル <ul style="list-style-type: none"> <li>化石エネルギーから、熱エネルギー系廃棄物への転換に伴う廃棄物の収集競争激化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル設備増強による多様な廃棄物の受入れ増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各セメント工場における塩素処理インフラ増強などの積極的な設備投資による廃棄物・副産物収集の拡大</li> <li>一般廃棄物処理施設の設置（市川リサイクルセンター）</li> </ul>
	災害廃棄物の受け入れ <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模災害発生に伴うセメント工場の操業停止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害廃棄物の迅速受け入れとセメント製品や建材製品の供給による早期復興支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害廃棄物の処理に関する協定締結による各地方自治体との強固な協力関係の構築</li> </ul>
	バイオマス発電事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>化石エネルギーから、熱エネルギー系廃棄物への転換に伴うバイオマス燃料の収集競争激化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規バイオマス燃料の使用拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規バイオマス燃料使用設備の充実</li> </ul>
<b>地球環境への配慮</b> 	環境負荷低減 適切な対応を取らなかった場合の <ul style="list-style-type: none"> <li>工場周辺環境への大気汚染、水質汚濁の発生</li> <li>社会的な信用の喪失</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セメント工場の周辺環境の保全</li> <li>工場の操業継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排ガス中の大気汚染物質を集塵機や脱硝装置を用いて防止し、法律の定める排出基準を下回る（セメント事業）</li> <li>水質汚濁防止（沈殿槽・油水分離槽・オイルモニター設置）</li> <li>水源別取水・排水量の把握、水リスクへの対応</li> </ul>
	地球温暖化防止 移行期のリスク <ul style="list-style-type: none"> <li>炭素に対する賦課金制度の導入</li> <li>カーボンニュートラル</li> <li>CN実現の為の研究開発費・設備投資増加</li> <li>リサイクル収集環境の変化 等</li> </ul> 物理的リスク <ul style="list-style-type: none"> <li>セメント生産拠点の災害影響 等</li> </ul>	移行期の機会 <ul style="list-style-type: none"> <li>石炭使用量削減・省エネルギー推進</li> <li>新規事業・カーボンビジネスの創出</li> <li>リサイクル市場：リサイクル利用技術の進歩・受入品目増加</li> <li>光電子・新材料事業：大容量、高速、省力デバイスニーズの高まりによる光通信部品や半導体製造部品の需要増加 等</li> </ul> 物理的機会 <ul style="list-style-type: none"> <li>国土強靱化によるインフラ需要増加、コンクリート維持・更新補修増加 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門部会「カーボンニュートラル・環境部会」の設置による推進体制の強化（サステナビリティ委員会）</li> <li>GXリーグへの参画と脱炭素移行計画「SOCN2050」の推進</li> <li>2025年度までに新規事業・カーボンビジネスを創出</li> <li>TCFDに基づく情報開示</li> <li>海洋製品（藻場礁）の供給によるブルーカーボン推進</li> <li>ICP（社内炭素価格）の設定、本社使用電力のカーボンニュートラル化</li> <li>セメントキルンにおけるフロン類の破壊</li> </ul>
	生物多様性の保全 <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な対応を取らなかった場合の社会的な信用の喪失</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的関心の高まりによる海洋製品の需要増加</li> <li>社会的信用の獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋製品（漁礁・藻場礁）の供給による海洋生物生育環境の保全</li> <li>自治体との協力を通じたツシマヤマネコの保護活動</li> <li>採掘後の鉱山跡地における植林活動</li> <li>各種イニシアチブ参画・賛同による情報共有</li> </ul>
<b>人材の育成・活用</b>	人権の尊重、ダイバーシティ&インクルージョン 適切な対応を取らなかった場合の <ul style="list-style-type: none"> <li>差別やハラスメントによる社員の人権毀損・人材の流出</li> <li>サプライチェーン上の人権リスクに起因する調達不安</li> <li>社会的信用の喪失、想定外のコストの発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる差別の禁止・ハラスメント防止による社員の人権保護・人材の定着</li> <li>多様な価値観や視点に基づいたイノベーションの創出</li> <li>健全なサプライチェーン体制構築による安定調達の継続</li> <li>社会的信用の獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門部会「労働・社会部会」の設置による推進体制の強化（サステナビリティ委員会）</li> <li>「人権方針」の策定・浸透、人権教育の実施</li> <li>人権デュー・ディリジェンスの検討</li> <li>「女性活躍推進行動計画」の推進</li> </ul>
	安全衛生、健康経営 適切な対応を取らなかった場合の <ul style="list-style-type: none"> <li>人材流出、採用難化</li> <li>病気・怪我に起因する労働生産性の低下、健康関連コストの増大</li> <li>労働災害の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康経営推進による労働生産性の上昇、社員のモチベーション上昇</li> <li>継続的な安全・衛生教育を通じた労働災害発生の防止による生産性の上昇</li> <li>人材育成制度や働きやすい職場に関する制度の充実による人材の確保・定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修制度（新入社員研修、階層別研修、OJT制度）</li> <li>本社主催、各事業所主催安全研修、外部安全研修の実施</li> <li>テレワーク制度やフレックスタイム制度等の充実</li> <li>産婦人科・小児科オンライン相談窓口設置</li> <li>社内ウォークラリーイベントの実施</li> </ul>
<b>ガバナンスの充実</b>	実効性の高いコーポレートガバナンス <ul style="list-style-type: none"> <li>ガバナンス体制の実効性の低下による企業価値の低下、社会的信用の喪失</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高い実効性を有したガバナンス体制の構築による企業価値の向上、社会的信用の獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレートガバナンス体制における実効性の強化</li> </ul>
	リスク管理、コンプライアンスの強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>法令違反、コンプライアンスの違反による社会的信用の喪失</li> <li>事業継続リスクの発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令遵守、コンプライアンス遵守による社会的な信用の獲得</li> <li>事業の持続的な継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク管理委員会の運営</li> <li>リスク管理に関する社内説明会・研修会の実施</li> <li>コンプライアンス教育の実施</li> <li>内部通報窓口の設置</li> </ul>